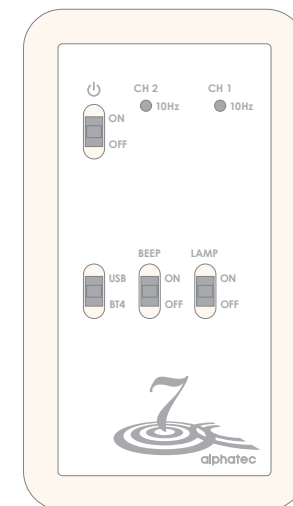




脳波フィードバックシステム アルファテック7

取扱説明書

Ver 2.8.25



■ アルファテック7の構成／システム、ソフトウェアのタイプ	1
■ 安全上のご注意事項	2

アルファテック7機器解説

■ 動作条件（7：スタンダード版／7G：録画・録音対応版）	3
■ アルファテック7本体 各部名称	5
■ ヘッドセンサーについて	7

アルファテック7の使い方

■ アルファテック7の接続イメージ	8
■ ご利用開始時の確認【重要】	10
■ 起動の順番【重要】	11
■ 計測時の姿勢について／上手な計測のために	12
■ 耳センサーの装着方法	13
■ 本体のみを使用した計測（スタンドアローン計測）	14
■ 2人 同時計測／左右脳 同時計測（2ch計測）	15
■ 脳波の種類と特徴	16
■ 故障かなと思ったら	19
■ 装置データ	21



株式会社
脳力開発研究所

2021.6.8 更新

アルファテック7の構成

- ・ アルファテック7 (alphatec7) は、脳波センサー装置と専用ソフトウェアで構成された、最新鋭の脳波センシング&計測システムです。
- ・ 「本体」「装置」とは、アルファテック7の中心となる四角い装置のことです。
- ・ 「ヘッドセンサー」とは、本体に接続して人間の頭部に装着するセンサー部のことです。
- ・ 「ヘッドセンサー」には、1ch 用と 2ch 用があります。
- ・ 1ch 用センサーは、1 人の脳波を計測する時もしくは 2 人の脳波を同時計測する時に使います。耳用のイヤースエンサーを、左耳に装着した場合は左脳の脳波、右耳に装着した場合は右脳の脳波を計測します。
- ・ 2ch 用センサーは、右脳と左脳の脳波を同時計測する時に使います。
- ・ 「ソフトウェア」とは、計測結果に基づいて PC 上で作動する、マインドセンサー7という名称のソフトウェアのことです。

システム、ソフトウェアのタイプ

- ・ アルファテック7 2nd Edition (2018年4月～) のシステムには、専用ソフトウェアの種類によって、以下の2つのタイプがあります。

①アルファテック7 (スタンダードタイプ)

1st Edition(生産終了)からソフトウェアを強化し、計測時の安定性を高めるとともに、「動画視聴計測モード」などを追加。改良型ヘッドセンサー Version.2 を付属。

②アルファテック7G (録画・録音対応タイプ)

アルファテック7の機能に加えて、PC 内蔵もしくは USB 接続のカメラやマイクで、計測時の様子を録画・録音できるようにした上位版機能を搭載。

トレーニング動画を視聴しながら脳波を計測する、カウンセリングを進めながら脳波を計測するなど、脳波と映像・音声を完全に同期させて記録することが出来ます。

「動画視聴計測モード」との組み合わせも可能で、再生している「動画」と、その動画を視聴している「様子」と、「脳波」を併せて記録することが出来るようになりました。

※「動画」「様子」「脳波」の全てを保存して、後から同期再生できるという意味です。

安全上のご注意事項



警告

- ・ 本体の電池ボックスに、市販の単三電池以外を入れないでください。破裂・損傷・故障の原因になります。
- ・ ケーブルは端子の奥まで、しっかりと挿入してください。ただし、力任せに挿入しないでください。端子が壊れて、本体の故障の原因になります。
- ・ ケーブルを挿入したまま、本体を持ち運ばないでください。端子が壊れて、本体の故障の原因になります。
- ・ ケーブルを本体から抜く時、左右に動かしながらかないでください。端子が壊れて、本体の故障の原因になります。



危険

- ・ PC の USB 端子以外の USB 端子に、本体を接続しないでください。本体の故障や感電の原因になります。
- ・ 静電気がある状態で使用しないでください。機器の故障やケガの原因になります。
- ・ 本体の電源を入れたまま、ケーブルを抜き差ししないでください。本体の故障や感電の原因になります。
- ・ USB ハブを経由して本体と PC を接続しないでください。本体の故障や感電の原因になります。
- ・ 静電気がある状態で、ケーブルを抜き差ししないでください。本体の故障や感電の原因になります。
- ・ 静電気がある状態で、ヘッドセンサーを装着しないでください。センサーの故障や感電の原因になります。
- ・ ヘッドセンサーを装着する時は、皮膚や電極の金属端子をウェットティッシュなどで湿らせてください。極端に乾燥した肌の状態でセンサーを装着すると、センサーの故障や感電の原因になります。
- ・ ヘッドセンサーを強く曲げたり、ケーブルをきつく巻いたりしないでください。断線によるセンサーの故障や感電の原因になります。



危険

- ・ PC はバッテリー駆動にして、商用電源から外してください。落雷などの影響を受けて、本体の故障や感電の原因になります。
- ・ 濡れた手や体で装置を操作しないでください。本体の故障や感電の原因になります。
- ・ 本体の電源投入中に、各種スイッチの切り替えや、ケーブル・コネクタの抜き差しを行なわないでください。本体の故障や感電の原因になります。
- ・ パソコンなどの機器の USB 端子と、本体の「給電専用 USB 端子」とをケーブル接続しないでください。本体の故障や感電の原因になります。
- ・ 本体やヘッドセンサーを分解しないでください。本体やヘッドセンサーの故障はもちろん、感電の原因にもなります。



使用上のご注意事項

- ・ アルファテック 7 は医療器具ではありませんので、有資格者以外は医療目的に使用しないでください。
- ・ アルファテック 7 は安全設計ですが、落雷などの被害を避けるため、PC はバッテリー駆動にして商用電源から外してください。
- ・ 取扱説明書に書かれている以外の方法で使用しないでください。
- ・ その他の注意事項は「故障かなと思ったら」を参照してください。

動作条件

- ・ アルファテック 7 は、市販型の製品としては、非常に高速かつ細密に脳波を計測できる強力な装置です。微細な脳波信号の変化も、きめ細かく見ることが出来るようになりました。
- ・ 無線（ブルートゥース）機能を使えば、小型の Windows タブレットやスマートフォンによる簡易計測も可能です。その場合、別途アプリをインストールしてください。

- ・ なお、信号の出力フォーマットを開示していますので、オリジナルのソフトウェア開発も可能です。ご興味をお持ちの方は、お問い合わせください。

7(スタンダード版)の動作条件

<Windowsパソコン、Windowsタブレット>

- ・ 対応 OS：Windows(R) 10 / 8.1 / 8 (32 ビット / 64 ビット版)
- ・ CPU：上記 OS が正常に動作する intel 製 CPU (core i5 以上を推奨)
※推奨以下の性能の CPU の場合、画面の動きがぎこちなくなったり、見にくくなる場合があります。
- ・ メモリ：2GB 以上 (4GB 以上を推奨)
- ・ HDD：約 300MB の空き容量（大量データの保管には、さらに容量が必要になる場合があります）
- ・ その他：装置の接続に空き USB (2.0 以上) 端子が一つ必要です。
- ・ 上記の条件を満たす場合は、Windows タブレットでも動作が可能です。無線方式（ブルートゥース）での接続をご希望の場合は、弊社指定の専用 USB ドングルをご使用いただきます。ただし、機器との相性がありますので、弊社にて接続を保証するものではありません。

<アンドロイド・スマートフォン、アンドロイド・タブレット>

- ・ アンドロイドスマートフォン(アンドロイド タブレット):アンドロイド OSバージョン 5.2 以上を搭載のスマートフォンもしくはタブレット (CPU: デュアルコア以上)
- ・ デモアプリをご提供中。弊社 WEB サイトよりダウンロードしてください。
※冊子「専用ソフトウェア MinD Sensor7」の P2~をご覧ください。

<Apple社 iPhone、iPad>

- ・ 近日対応予定。

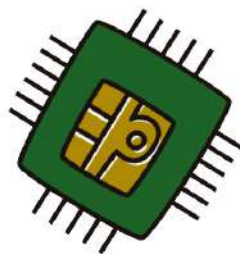
7G(録画・録音対応版)の動作条件

<Windowsパソコン、Windowsタブレット>

- ・ 対応 OS：Windows(R) 10 (64 ビット版)
- ・ CPU：上記 OS が正常に動作する intel 製 CPU あって、コアが 4 つ以上ある corei5 もしくは corei7 第 8 世代以上を推奨。
※推奨以下の性能の CPU の場合、画面の動きがぎこちなくなったり、見にくくなる場合があります。
- ・ メモリ：8GB 以上
- ・ HDD：約 300MB の空き容量（大量データの保管には、さらに容量が必要になる場合があります）
- ・ カメラ：動画撮影のために、パソコン内蔵のカメラ、もしくは、USB 接続のカメラが必要です。
- ・ USB：装置の接続に空き U S B (2.0 以上) 端子が一つ必要です。USB 接続のカメラを使用する場合は、更にもう一つの USB 端子が必要です。
- ・ 上記の条件を満たす場合は、Windows タブレットでも動作が可能です。

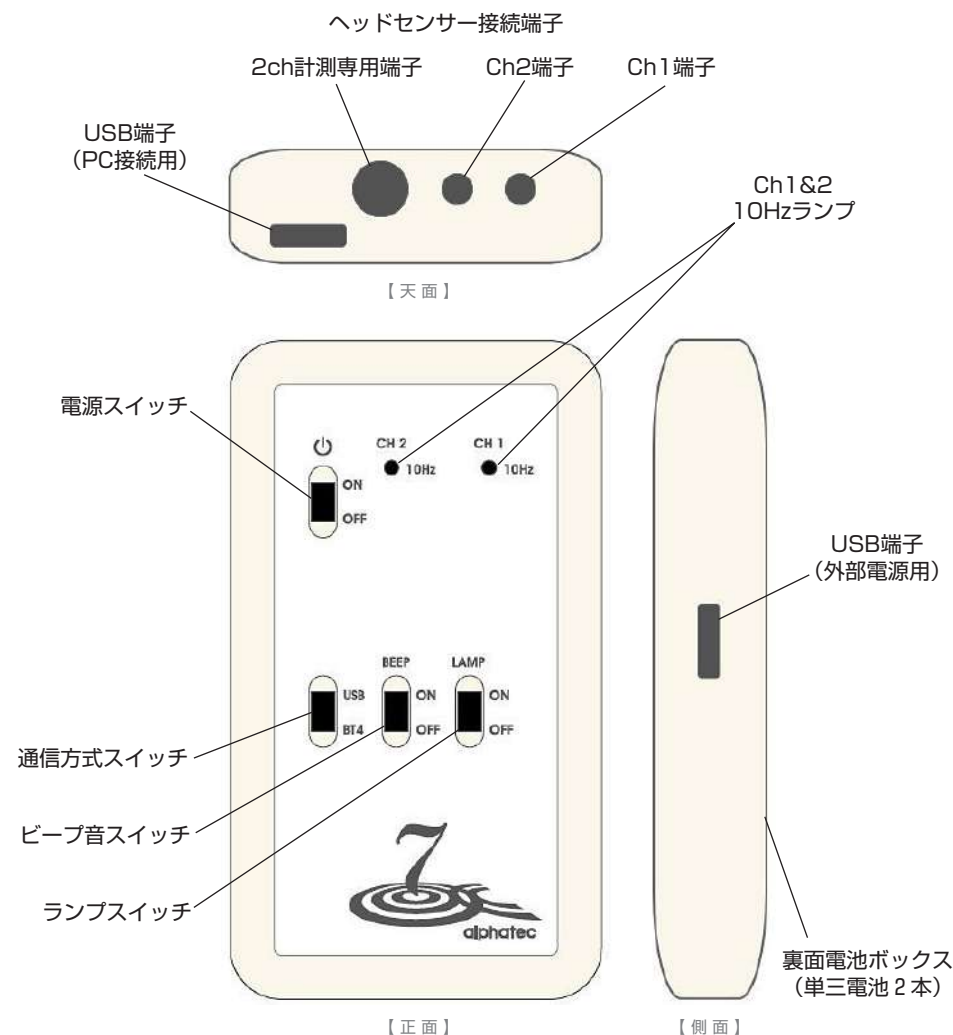
アルファテック7本体について

- ・ 本体にヘッドセンサーを接続して、脳波を計測します。
- ・ 本体は、非常に精密な電子部品で構成されていますので、電気的なショックや強力な磁力の影響がないように、また、水に濡れることがないように、ご注意ください。



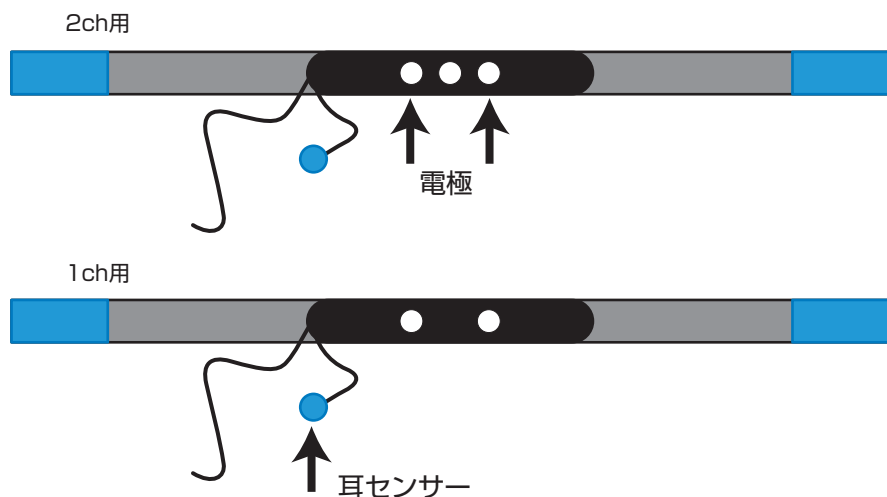
アルファテック7本体 各部名称

- ・ アルファテック7本体は、クリーム色の筐体に各種の端子やスイッチからなります。



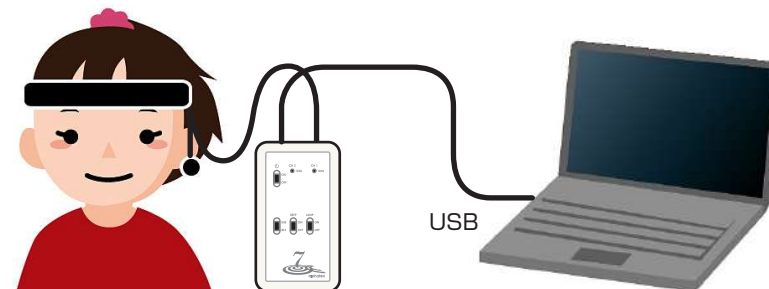
ヘッドセンサーについて

- ・ ヘッドセンサーは 2ch 用と 1ch 用があります。
- ・ ベルトの端がマジックテープになっており、ベルト全体が若干伸び縮みします。
- ・ 基本的には、耳用のイヤースセンサー（耳センサー）が左耳に来るように装着してください。
- ・ 電極の装着位置は、眉毛のすぐ上辺りと覚えておくと良いでしょう。



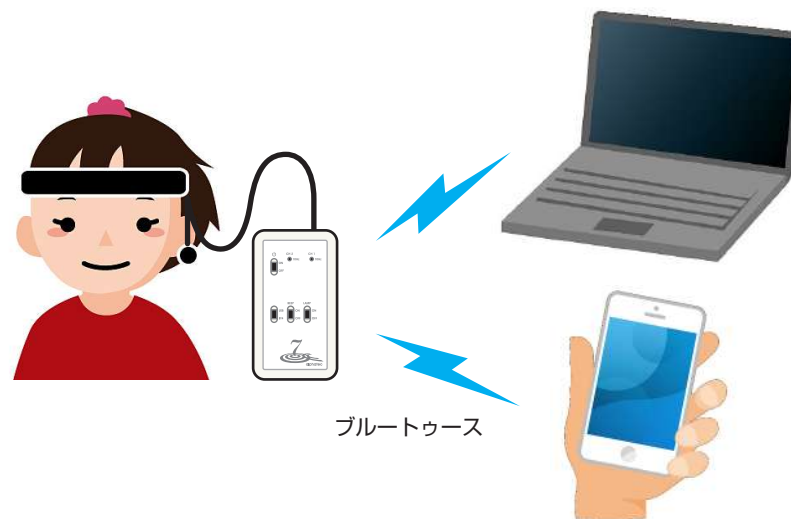
アルファテック7の接続イメージ ①

- ・ 本体と PC を USB ケーブルで接続します。
- ・ 本体に接続したヘッドセンサーは、電極が計測者の額の皮膚に直接触れるよう、頭部に装着してください。



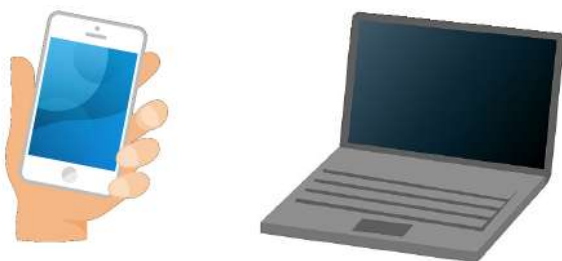
アルファテック7の接続イメージ ②

- ・ 本体と、Windows PC、Windows タブレット、もしくは、アンドロイドスマートフォンとの接続には、無線方式(ブルートゥース)も選択できます。



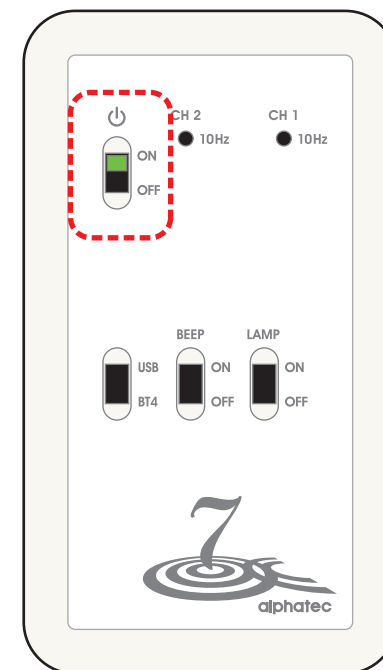
アルファテック7の接続イメージ ③

- ・ Windows PC、Windows タブレットとの無線接続には、専用の無線 USB ドングルが必要です。PC やタブレットとの相性によっては、接続できないケースもあります。
- ・ アンドロイドスマートフォンとの接続には、別途ハードウェアは必要ありません。ただし、アンドロイドのバージョンは 5.2 以上です。デモ アプリをご提供しています。



ご利用開始時の確認【重要】

- ・ アルファテック本体は、単三乾電池 2 本か、外付けのモバイルバッテリーで動作します。
- ・ 電源を入れると、電源スイッチ緑色の LED が光ります。このとき、LED の輝きが弱いようだと、電池残量が少ない可能性があります。
- ・ 一般的なアルカリ乾電池 2 本で、約 5 ～8 時間のご利用が可能です。
- ・ 再充電可能な大容量の充電電池であれば、10 時間以上のご利用も可能です。
- ・ 電池のおおまかな残量は、ソフトウェアの画面でも確認することが出来ます。

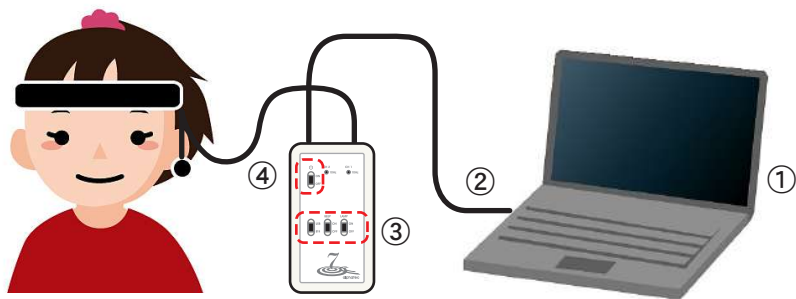


起動の順番 【重要】

- ①PC を起動します。
- ②本体と PC を、USB ケーブルで接続します。
- ③本体の USB/BT4 切り替えスイッチが、USB 側にあること、BEEP と LAMP スイッチがご希望の位置にあることを確認します。
- ④本体の電源を入れます。
- ⑤ソフトウェアを起動すると、ご利用いただける状態になります。

※冊子「専用ソフトウェア MinD Sensor7」参照

※ソフトウェアの起動は、右のアイコンをクリックするか、プログラムグループの中の「脳力開発研究所」の中にある「MinDSensor7」をクリックしてください。



重要

- ・ 本体の電源が入っている状態で、「USB/BT4 切り替えスイッチ」を切り替えると、正常に動作せず、ランプが激しく点滅して注意を促します。
- ・ ランプが激しく点滅している場合は、本体の電源を切って、スイッチをご希望の位置に切り替えてから、電源を入れ直してください。
- ・ PC と接続してご利用いただく場合は、電池の消耗を抑えるためにも、**LAMP と BEEP スイッチは「OFF」**にされることをお勧めします。

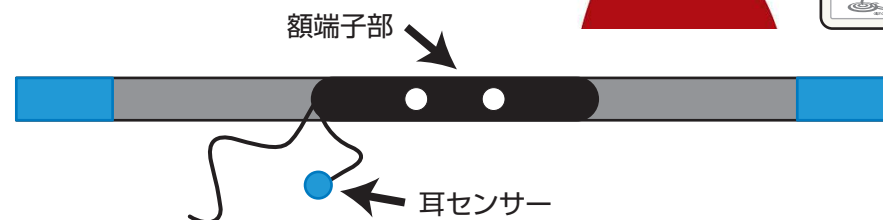
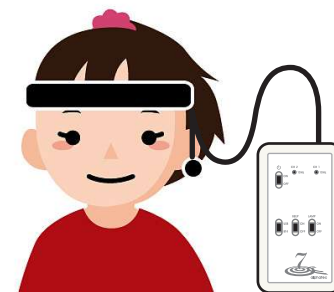
計測時の姿勢について

- ・ 計測時には、大きな動作をせず、楽な姿勢で軽く目を閉じることをお勧めします(安静閉眼)。
- ・ 椅子にもたれられる場合は、もたれてゆったりと。小さな椅子の場合は、頭が前後に極端に傾かないようにして、背筋を伸ばしながら自然な姿勢で着席してください。
- ・ 勉強をしながら、マッサージをしながら、カウンセリングをしながらなど、軽く動きながらの計測も可能です。ただし、動作を伴うと多少ノイズが増えますので、大きな波形は無視してグラフをご覧ください。



上手な計測のために

- ・ ヘッドセンサーの「額端子部(丸い金属部分)」や「耳センサー」が皮脂などで汚れていたり、額や耳との接触が不十分であったりすると、うまく計測できません。
- ・ 使用ごとに、ウェットティッシュなどで、よく清掃してください。特に、使用直前に清掃すると、感度の良い計測が出来ます。
- ・ 冬季など乾燥しやすい気候の時には、静電気防止の意味も含めて、使用前に必ずウェットティッシュなど湿り気のあるものでセンサーの電極と額を拭ってください。



耳センサーの装着方法

- ・ヘッドセンサーの耳センサーは、金属部分が皮膚によく接触することが必要です。
- ・コツとしては、装着前に、ウェットティッシュで装着部位を湿らせたり、耳を軽くもんで温めたりすると良いでしょう。
- ・写真を参考にしてセンサーを装着してください。
- ・写真①②が基本の装着方法です。耳の形状によって①②では装着がうまく行かない場合、③④もお試してください。
- ・また、装着がうまく行かない時は、耳の電極→眉間の電極→左右の額の電極の順に接触状態を確認してください。

①



②



③



④



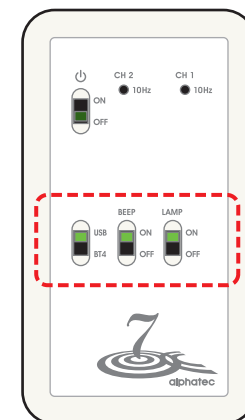
(※)耳センサーの電極が耳の内側に来ます。

本体のみを使用した計測（スタンドアローン計測）

- ・アルファテック7は、本体のみでも簡単に 10Hz の優勢状態（正確には 9.75Hz～10.25Hz）を計測できます。
- ・1ch 計測はもちろん、2ch 計測も可能です。
2ch 計測とは…
 - 1 人の左右脳波の同時計測
 - 2 人の脳波の同時計測
- ・PC などと接続せず、本体の切り替えスイッチを以下の内容に設定してから、本体の電源を入れてください。ヘッドセンサーは、通常通り接続、装着します。

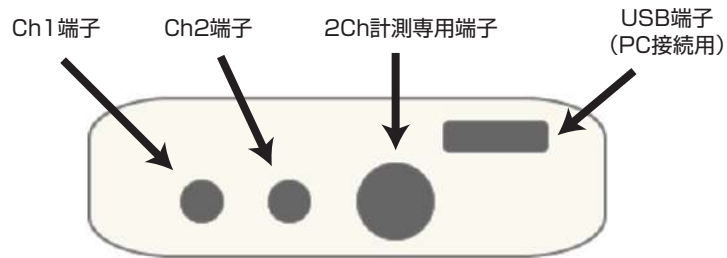
- ・ USB / BT4スイッチ = **USB側**
- ・ BEEPスイッチ = **ON**
- ・ LAMPスイッチ = **ON**

- ・計測中、10Hz の脳波が優勢になると、ランプが光り、ビープ音が鳴ります。ランプが先に点灯し、続いてビープ音が鳴ります。ランプの点灯時間が短いと、ビープ音が鳴らない場合があります。
- ・Ch1 で 10Hz が優勢の場合は、高めのビープ音が、Ch2 で 10Hz が優勢の場合は、低めのビープ音が鳴ります。両チャンネル同時に 10Hz が優勢の場合は、高低 2 種類のビープ音が短く交互に鳴ります。



2人 同時計測 (2ch計測)

- ・ 本体には、Ch1 用と Ch2 用の 2 チャンネル分のコネクタがあります。それぞれのコネクタに、1ch 用ヘッドセンサーを二つ接続すると、2 人の脳波を同時に計測することが出来ます。
- ・ 設定ウインドウで、2ch 計測を選択して、計測ウインドウに移ります。
※冊子「専用ソフトウェア MinD Sensor7」の P29 参照
- ・ 計測ウインドウでは、上半分が Ch1、下半分が Ch2 の脳波の表示エリアとなります。



左右脳 同時計測 (2ch計測)

- ・ 2ch 分の計測が可能なアルファテック 7 の機能を活かして、一人の左右脳の脳波を同時に計測することが出来ます。
- ・ 2ch 同時計測用の専用ヘッドセンサー(ベルトに銀色の端子が 3 つあるもの)を、2ch 計測専用端子に接続します。
- ・ 左右が入れ違わないように、基本的に耳用センサーは左耳に装着してください。
- ・ 計測ウインドウでは、上半分が右脳、下半分が左脳の脳波の表示エリアとなります。
※耳用センサーを右耳に装着すると、上半分が左脳、下半分が右脳の表示エリアになります。
※冊子「専用ソフトウェア MinD Sensor7」の P29 参照

脳波の種類と特徴

- ・ 勉強や仕事などで、集中できて満足感を得ている時の脳波は、10Hz のミッドアルファ波が優勢になります。
- ・ また、緊張感や不安感、イライラやストレスが作用している時は、12Hz のファストアルファ波～14Hz 以上のベータ波が優勢になります。この状態が続くと、自律神経の失調や生活習慣病になりやすく、健康的に好ましくありません。

β波 (15～26Hz)	緊張感や焦燥感、不安やイライラなどの大脳の活動状態を反映する脳波。
ファストα波 (12～14Hz)	一生懸命に集中した状態で、リラックスしておらず、あまりゆとりがない時の脳波。
ミッドα波 (9～11Hz)	リラックスした集中状態で、頭が冴えている時の脳波。 ※10Hzはミッドα波の周波数帯に含まれます。
スローα波 (7～8Hz)	無意識集中、休息集中など、意識が低下したまどろみ状態の脳波。 ※7.8Hzはスローα波の周波数帯に含まれます。
θ波 (4～6Hz)	浅い睡眠状態で、意識がかなり低下している時の脳波。
δ波 (1～3Hz)	深い睡眠状態で、意識がほとんどない時の脳波。

ファストα波～β波が優位

不安・不満・緊張・ストレスなどから、自律神経の失調や生活習慣病を生じやすい状態。健康面でも好ましくない。

ミッドα波中、10Hzが優位

最もリラックス・集中した、能力発揮に相応しい状態。

スローα波中、7.8Hzが優位

瞑想の無の状態や眠りの前のまどろみと似て、健康の維持・回復機能が最も活性に働く状態。

脳波について

- ・ 脳波は、脳の活動状態を観察する手段として、1929 年に H.Berger が計測してから、長きに渡り臨床応用されて来ましたが、空間解像度が悪いことと定量化が出来ないことのために、ほとんど進歩しませんでした。

- ・しかし近年、AI(人工知能)への応用の期待から、工学の立場で脳波研究が飛躍的に進歩してきました。

- ・アルファテック7は、工学的立場の要請に供することが出来るよう、測定精度と信頼性の向上について工夫されています。

- ・臨床脳波計では脳波を周波数で

13~30/sec を β 波

8~13/sec を α 波

4~8/sec を θ 波

0.5~4/sec を δ 波

と区分していますが、アルファテック7では α 波を更に3つに分けて

12~14/sec を ファスト α 波

9~11/sec を ミッド α 波

7~ 8/sec を スロー α 波

としました。小数点以下は四捨五入ですが、境界部分は波形で判断します。

注目される 10Hzとは？

- ・ 10Hz の脳波には・・・

記憶力や発想力など、意図的に秀でた能力を発揮している時の脳波は、10Hz が強く観察されています。知的能力だけでなく、合気道や空手、剣道などの運動能力でも 10Hz が必須と思われます。

この状態になるためには、緊張を伴う集中のファスト α 波状態からリラックスさせるか、無念無想のスロー α 波状態から現実に意識を向けるかで、いずれも反射ですから、日頃の精進が決め手になります。

アポロ4号の実測で、電離層のプラズマ振動は 7.8Hz を中心としています。が、スペクトル分析では、 ± 2 Hz の半値幅がありますので、10Hz でも天界と共鳴している可能性があります。

スポーツのファインプレイでは、神懸ったことが見受けられますが、天界のプラズマ振動と共鳴しているのではないかと思います。

7.8Hzとは？

- ・ 7.8Hz の脳波には・・・

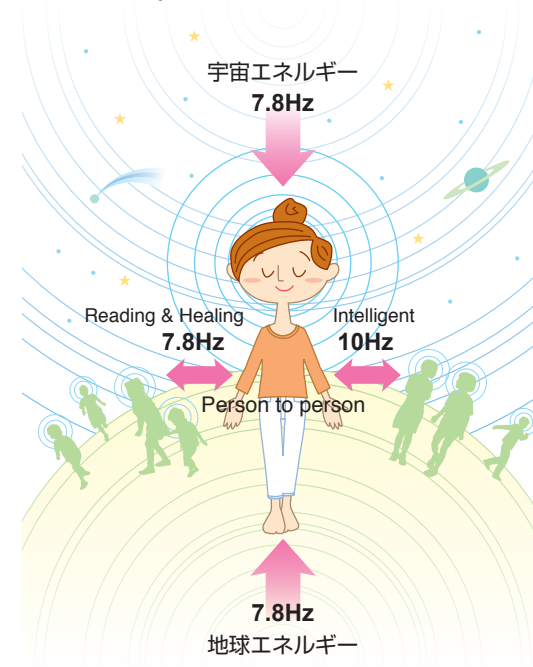
睡眠直前のまどろみ状態や瞑想の無念無想状態では、7.8Hz のスロー α 波が観察されます。

1952年に、ドイツの物理学者 W・シューマンが、太陽からの荷電粒子と地磁気との反応で電離層が生じて、計算上では 7.83Hz のプラズマ振動をしているはずであるとの仮説を提唱しています。

そして 1967 年、アポロ4号が電離層を通過する際に、7.8Hz の振動があることを実測したのです。

地球環境には、この 7.8Hz の電磁波が存在しており、その環境の下で生命体が生じた訳ですから、脳波の基になっていると考えても良いと思います。

人は意識で活動しますから、意識によって脳波も変化しますが、睡眠の境界である無意識状態では 7.8Hz になります。この時は、天界と繋がると考えられるのです。



***** 故障かなと思ったら *****



こちらには、うまく動作しない場合を含め、
利用方法のヒントが書かれていますので、
ぜひ、ご一読ください。

-
- 「本体」に「ヘッドセンサー」から伸びたケーブルのコネクターが、しっかりと接続されていますか？

※ 接続が不十分ですと、正常な計測が出来ず、ショートするなどして本体の故障に繋がります。

.....

- 「本体」の電源を入れたまま、ケーブルを抜き差ししていませんか？

※ ショートなど、本体の故障に繋がりますので、絶対に避けてください。また、計測信号が異常になった場合は、必ず本体の電源を切ってから、ソフトウェアを再度立ち上げてください。

.....

- 「本体」の電源を入れたまま、各種スイッチを切り替えていませんか？

※ ショートなど、本体の故障に繋がりますので、絶対に避けてください。

.....

- 「ヘッドセンサー」の端子部は、額や耳にしっかりと接触していますか？
-

-
- 額や耳が乾燥しすぎていませんか？
-

- 「ヘッドセンサー」の端子部が汚れていませんか？

※ ヘッドセンサーの端子部は、人体の皮脂など、目に見えにくい汚れで、すぐに接触が悪くなります。使用前に、ウェットティッシュなどで、きれいに清掃してください。

※ 額や耳が乾燥している場合や皮脂が多い場合、また、産毛が多い場合などに計測しにくくなる場合があります。ウェットティッシュで拭いたり、皮膚を揉んでなじませたり、また、ヘッドセンサーを皮膚に軽く押し付けたりするなどして、良いコンディションになるよう試みてください。

.....

- 「本体」の電池残量は十分にありますか？

※ 電池が消耗したまま計測すると、計測途中で止まったり、ノイズが増えたりする場合があります。

.....

- PCのUSB端子から電源を取っていませんか？

※ PCのUSB端子から電源を取ると、PC特有のノイズが混入して正常な脳波を計測できなくなる可能性が高まります。

.....

- スマートフォンなど、電波の強い電子機器をポケットに入れていたり身に付けていたり、すぐ近くに蛍光灯のような強い光を発する家電品を置いていたりしませんか？

※ 各種の機器の電波をノイズとして拾い、正常な脳波を計測できなくなります。

お問い合わせ先

株式会社脳力開発研究所

e-mail support@alphacom.co.jp

TEL 06-6770-5203(火～土 10:00～17:00 / 日・月・祝休)

FAX 06-6770-5204

装置データ

■【アルファテック7 本体】

- クリーム色本体を、PC等とUSB接続。もしくは、無線（ブルートゥース4）にて、スマートフォンなどに信号送信。

■ 本体外形

- ・ 幅 7.6センチ 縦 13.5センチ 厚 2.8センチ

■ 電 源

- ・ 単3電池2本（アルカリ乾電池、エネルーブなどの充電電池利用可能）
- ・ もしくは、モバイルバッテリーにて給電専用USBコネクタに給電

■ 周波数特性

- ・ 脳波計測部 4～26Hz ±3db程度
- ・ （参考取得 1～ 3Hz）

■ 最小入力レベル ±1.2 μ v程度

- ・ （差動回路最大アンプゲイン時）

■ サンプリング

- ・ 1000倍インパルスアンプにて、1024諧調取得
- ・ フィードバック法による微小ノイズ除去
- ・ 本体内でマイクロボルト変換、FFT変換
- ・ 40Hz以上を除去
- ・ FFT分解能 1Hz毎（5～15フレーム／秒程度）
- ・ 7.8Hz専用分解

■ コネクタ

- ・ PCとの通信用マイクロUSBコネクタ
- ・ 第1ch用、1chヘッドセンサー接続コネクタ
- ・ 第2ch用、1chヘッドセンサ接続コネクタ
- ・ 2ch同時計測用2chヘッドセンサー専用接続コネクタ
- ・ 電源供給専用マイクロUSBコネクタ

■ ランプ、ビープ、スイッチ

- ・ 第1, 2ch 10Hz優位時点灯ランプ
- ・ 第1, 2ch 10Hz優位時ビープ
- ・ 電源スイッチ（ON／OFF）
- ・ 通信方式スイッチ（USB／BT4）
- ・ ランプスイッチ（ON／OFF）
- ・ ビープスイッチ（ON／OFF）

■ ソフトウェア仕様

- ・ アンプゲイン（4段階、1（標準）、2、4、8倍）
- ・ 周波数特性調整（1Hz毎イコライザー方式）
- ・ 脳波RAW信号表示
- ・ 1Hz毎グラフィック表示
- ・ 帯域毎グラフィック表示
- ・ 優位周波数帯表示バー
- ・ 7.8Hz、10Hz優位時表示バー

■【2ch】

- ・ 脳波RAW信号、2chコヒーレンス分析・表示バー
- ・ 7.8Hz、10Hz 2ch同時優位時表示バー
- ・ 測定時間設定
- ・ 端子接触アラート
- ・ バッテリー残量
- ・ 脳波RAW信号
- ・ 各周波数帯、優位時間積算表示
- ・ ※ アンプゲインは、ソフトウェアから本体に指示

■ ヘッドセンサー

- ・ 電極の種類 純ニッケル
- ・ 電極の配置 単極誘導 左Fp1 右アース 耳電極
- ・ ヘッドセンサーを2式接続することで、2人の脳波の共鳴を測ることができます。
※2ch同時計測用ヘッドセンサーを利用することで、1人の左右脳波を計測することができます。